

2023. 3. 24 (Fri) — 4. 9 (Sun)
10:00—17:00

東京藝術大学大学美術館陳列館
Chinretsukan Gallery
Tokyo University of the Arts



デイヴィッド・オライリー
David O'Reilly

エド・フォーコレス
Ed Fornieles

陳飛
Fei Chen

グラハム・マーティン
Graham Martin

ウチダリナ
Lina Uchida

山本和真
Kazuma Yamamoto

上原菜々恵
Nanae Uehara

芹野直子
Naoko Serino

シュペラ・ピトリッチ
Špela Petrič

河野富広
Tomihiro Kono

柳原好貴
Takaki Yanagihara

王之玉
Zhiyu Wang

Zzyw

入場は閉館の30分まで・月曜休館
入場無料 #詳細は公式ウェブサイトをご覧ください
Admission allowed until 16:30 / Closed on Mondays / Admission Free
* Please access the official website for details

主催: 東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科 (GA)
アートプロデュース専攻
Department of Arts Studies and Curatorial Practices,
Graduate School of Global Arts
共催: 一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
助成: 藝大フレンズ
協力: Galerie Supermarkt

Glitches in Love: A New Formula

愛のグリッチ 新しい公式

企画概要

本企画は、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科の長谷川祐子教授監修の下、キュレーションを専攻する学生が主体となり企画運営を行う実践研究となります。

学生たちが一年を通して学んだキュレーション実践理論やその思考を基に、展覧会を実際に開催することで発表すると共に、多くの鑑賞者から様々な反応を得ることで新たな学びを創造し、きっかけ作りの提供を目的としています。また、本研究科の活動を多くの方々に広く知ってもらうことも目的の一つとし、本展覧会を開催致します。

コンセプト

本研究科キュレーション領域の学生が主体となり企画運営する本展「Glitches in Love: A New Formula/ 愛のグリッチ：新しい公式」では、「愛の新しい公式」をテーマに日本、イギリス、中国、アイルランド、そしてスロベニアから12組のアーティストを紹介します。

人類の歴史において長きにわたって語られてきた「愛」。しかし、その愛の枠組みから溢れてしまった形の愛が多くあることを、現代の私たちは徐々に認識し始めています。本展ではそのような愛を「グリッチ」とし、それらを含めた包括的な新しい「愛の公式」とは何かを探っていきます。グリッチとは、システム上の不具合やバグなど取り除かれるべき対象を表す言葉です。クィアをはじめとする性自認にまつわる愛、異種間の愛、自己愛、ヴァーチャルな愛など、これまで定義上軽視されてきた愛の形「グリッチ」に目を向け、現実世界に限らず仮想世界なども含めたあらゆる世界における愛の「新しい公式」を考えます。既存の愛の枠組みの外に置かれてきたトピックに着目し、それらを包括的に考察することで見えてくる愛に対する認識への課題や可能性をグローバルな視点から捉える事を試みます。

見どころ

1. 現代社会のトピックと結びついた展示

多様性を問われる現代社会を「愛」という視点から紐解き、今の時代に求められる他者との繋がりや自分との向き合い方へと迫ります。

2. 日本初紹介のアーティスト

5カ国以上から集まる世界各国からの新気鋭のアーティスト12組による作品を紹介します。

3. 国際色豊かな若きキュレーターたちが1年間かけて作り上げた展覧会

長谷川祐子教授のもと、多国籍の若手キュレーターが集って作り上げた展覧会です。会期中は、キュレーターによるツアーを複数言語でお楽しみいただけます。

展覧会内容

デイヴィッド・オライリーはビッグバンをテーマにした、光、色、音を組み合わせたフラクタル幾何学に基づいた映像作品 < *Eye of the Dream* > を展示。本展に訪れた人が一番最初に見る作品として、世界の始まり、すなわち愛の始まりを私たちに提示する。ウチダリナによる < 1990 > は、自身の出自とこれまで生き抜いてきた平成の時代を独自の目線から問いかける映像作品となっている。リサーチコレクティブである Zzyw の < *ThingThingThing* > は数学的演算を独自のヴァーチャル世界へと可視化させたオンラインプラットフォームであり、実際に来場者がヴァーチャル世界を楽しめる体験型展示として会場に設置される。王之玉は錬金術で語られる両性具有の神であるレビスからインスパイアされた立体作品 < *Rebis* > と、天使をテーマにした絵画作品 < *Angel loop* > の2作品で、神話や神秘学における愛の世界を表現する。エド・フォーニレスは、ヴァーチャルな生命体と人間との間に生まれるコミュニケーションを愛くるしいキャラクターによって実現させた NFT プロジェクト < *Finiliar* > を、実物のキャラクター像や映像と合わせて発表。上原菜々恵・柳原好貴による連作 < *Why are you so warm?* > < 秘密の愛 (*Invisible Love*) > は、精神世界における純粋な愛に迫った彼ら独自の哲学を反映させている。山本和真による絵画 < *Treating (Sid)* > < *Child GOD* > は、人間が視覚的に捉えている事象の不安定さに迫り、私たちの中に存在する嗜虐的な側面を描き出す。陳飛の絵画 < *Lychee* > は、掴めそうで掴めない人間の愛の形を独自に形容した世界へと観客を誘う。自然科学分野のリサーチャーでもあるシュベラ・ピートリッチは、人間と植物の細胞を組み合わせるなど異種間のつながりを追求したリサーチプロジェクト < *The Vegetal, Intimately* > を展示する。クィアをテーマとした作品を多く発表してきたグラハム・マーティンは、本展では身体や魂と建築物のつながりに焦点を当てたタイル作品 < *Keep Clear* > で経過する時間の中に存在する人間の有様を問いかける。ジュートを素材とする立体作品を手がける芹野直子は、生物が輝きを放つ美しさの瞬間に触発された心象風景を "カタチ" にした作品 < *generating-4* > を展示。ウィッグ・アーティスト河野富広によるインスタレーション < *Fancy Creatures* > は、身体の一部である髪の毛が身体から切り離されたときに得る物質性を生かしたピースによって構成される。12組の作家によるこれらの作品は、現代社会における「新しい愛の公式」を導き出す手がかりになるだろう。

関連プログラム

内覧会とオープニング・レセプション

令和5年3月22日(水) 17:00頃

詳細は東京藝術大学国際芸術創造研究科 HP 及び本展の特設ウェブサイトと SNS にてお知らせします。

会期中のイベント

会期中展示会場にて、参加作家によるオンライントークやイベント、共同キュレーターによるギャラリートツアーなどを予定しております。

詳細や変更については、GA のウェブサイト (<http://ga.geidai.ac.jp/>) 及び本展の特設ウェブサイト、SNS よりお知らせします。

東京藝術大学国際芸術創造研究科 HP : ga.geidai.ac.jp

本展覧会特設ウェブサイト : <http://glitchesinlove.com>

本展覧会特設 Facebook ページ : Glitches in Love 展

本展覧会特設 Twitter : @GA_Curatorial

本展覧会特設 Instagram : GA_Curatorial



参加アーティスト



David O'Reilly, *Eye of the Dream*, 2019
© Courtesy of the artist

David O'Reilly

デイヴィッド・オライリー

アイルランド出身のメディアアーティスト。現在はロサンゼルスを拠点に活動。これまでにアニメーターとして《おねがい なにかいって》などの短編映画で数々の賞を受賞。テレビ番組「アドベンチャー・タイム」や「サウスパーク」の作者としても活躍するほか、アカデミー賞作品《her/世界でひとつの彼女》の劇中に登場するビデオゲームを担当するなどマルチに活動を展開している。

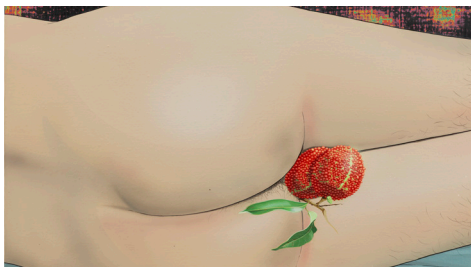


Ed Fornieles, *Familiar*, 2023
© Courtesy of the artist

Ed Fornieles

エド・フォーニレス

ロンドンを拠点に活動。近年取り組んでいる NFT プロジェクト「Familiar」では、人間と非人間の感情の結びつきをテーマにしており、目にすることもなければ考えることもないが私たちに確実に影響を与えているものを考察している。これまでに、サーペンタイン・ギャラリー、チゼンホール・ギャラリー、ニューミュージアム、マーティン・グロピウス・バウなど、様々なアート施設やギャラリーにて展覧会を開催している。



陳飛, *Lychee*, 2022
© Courtesy of the artist
Photography: Yang Hao

Fei Chen

陳飛

1983年、山西省宏道生まれ。北京電影学院卒。北京を拠点に活動し、主に絵画を制作。陳飛の作品は空想的でしばし倒錯した構成となっており、彼の私生活の要素が超現実的に現れている。自画像を風刺的に取り入れることで東洋と西洋の美術史的規範を再構築した様子を、映画のスチール写真のような生き生きとした構図のグラフィックと洗練されたタッチで表現する。また、グローバル文化における中国の急速な経済成長の影響と国民の集団性に対して、作品を通して問いかけている。



Graham Martin, *Keep Clear*, 2021
© Courtesy of the artist

Graham Martin

グラハム・マーティン

イギリス出身。廃墟になった場所やその遺物などに纏う、そこに居た人々の気配や時代の残り香などの「残されたもの」を再解釈し作品にしている。制作を通して、HIV やエイズなど歴史のなかで抑圧されてきたクィアコミュニティに時間と空間を超えてアクセスしようと試みる。クィアコミュニティの歴史に関連する抑圧的な性質や物語を脱構築し、従来の直線的な時間軸を断ち切り、私たちの既存の時間と空間にオルタナティブな文脈を与える作品を発表。

Lina UCHIDA, *1990*, 2021

© Courtesy of the artist

Photography: Naoki Okumura

Lina UCHIDA

ウチダリナ

東京都出身。中国美術学院に留学中の為、杭州市在住。東京藝術大学デザイン学部卒業後、同大学工芸科染織専攻修士課程を修了。2022年「PAPER:かみと現代美術」熊本市現代美術館、「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.10」高松市美術館など。自身の出自から再構築された死生観を元に和紙を用いた立体インスタレーションやマルチメディアでの表現を行う。近年では「死生観」に加え「他者との交差」「日常と非日常」に触れる作品制作を試みる。

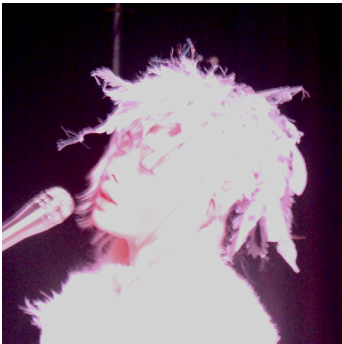
山本和真, *Child GOD, Treating(Sid)*, 2022

© Courtesy of Ritsuki Fujisaki Gallery

Kazuma Yamamoto

山本和真

東京を拠点に活動。インターネット上で悪意を含みながら複製され広まっていく meme(ミーム) やホラー映画の不気味さへの興味から、明るく奇妙なテイストで人間の狂気的な部分や嗜虐性を不穏なコントラストで表現する。身近なモチーフを、意図的な拙いタッチと写実的な表現を通して描くことで、人間の中に存在する嗜虐的な側面を観客に問いかけている。社会とは折り合いがつかない”衝動”を冷たく捉えている。

上原菜々恵, *Why are you so warm?*

柳原好貴, 「秘密の愛」, 2023

* 参考画像

© Courtesy of the artist

Nanae Uehara/Takaki Yanagihara

上原 菜々恵 / 柳原 好貴

上原菜々恵は1999年生まれ音楽家。どんな系譜も感じさせない、ミステリアスな音楽性と雰囲気をもつ。ポピュラーミュージックのような気配のあるアンビエント音楽が特徴。エレキギターとシンセサイザー、自身の声を主に使用し、カセットテープで録音する制作スタイルをとる。楽曲提供やショー音楽も手掛ける。これまでに「SHIBUYA PARCO 3rd ANNIVERSARY」などでパフォーマンスを披露。只今新作アルバムを製作中。

柳原好貴は上原菜々恵と共にアーティスト活動を開始し、ガラス作品やドローイング作品で目では見えないものの力を表現する。

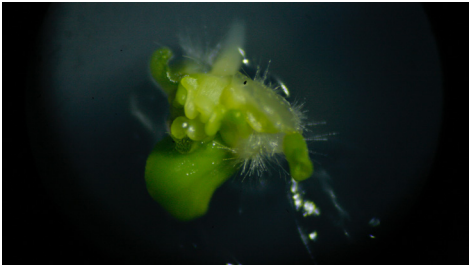
芹野直子, *generating-4*, 2022

© Courtesy of the artist

Naoko Serino

芹野直子

九州産業大学芸術学部デザイン学科卒業。作品の素材にはジュートを使用。撚りが解れた紐の先端に太陽の光が透過された繊維の美しさに感動した時からジュートに惹かれたことをきっかけに、その自然の色で制作している。未紡糸の繊維を使用することで、表現の可能性が広がり、導かれ、光と空気を含む表現が生まれている。内側に蓄積、凝縮されたちからが外側へ向かう時の一瞬のエネルギーに興味があり、生物が輝きを放つ美しさの瞬間に触発された心象風景を”カタチ”にしている。これまでに世界各国にて作品が展示されているほか、シカゴ美術館などに作品が収蔵されている。主な受賞歴として、2008年第10回 KAJIMA 彫刻コンクール 銀賞受賞(東京)など。



Špela Petrič, *The Vegetal, Intimately*, 2023
© Courtesy of the artist

Špela Petrič シュペラ・ピートリッチ

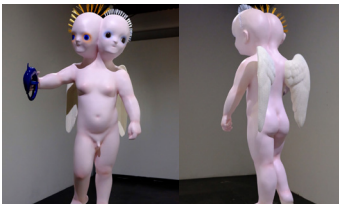
自然科学のバックグラウンドを持つスロベニア出身のニューメディアアーティスト。バイオメディアとパフォーマンスを組み合わせることで身体間の異質な関係性を表現し、(バイオ)テクノロジー社会の根底を明らかにした上でその代替案を提案するプロジェクトを数多く発表。これまでに White Aphroid 賞(スロベニア)、バイオアート・アンド・デザイン・アワード(オランダ)、Prix Ars Electronica 2022 「Award of Distinction」賞(オーストリア)などの受賞歴がある。



河野富広, *Fancy Creatures*, 2023
© Courtesy of the artist
Photography: Sayaka Maruyama

Tomihiro Kono 河野富広

愛媛県出身。日本で美容師として10年ほどキャリアを積み、十日会にて日本髪(結髪)の手ほどきを受けたのち、2007年に渡英。作品のコンセプトに基づいたウィッグやヘッドピースを制作し、ほどなく「ヘア・アンド・ヘッドプロップアーティスト」という独自の肩書を確立。2010年に London fashion week にて TOMIHIRO KONO コレクションを発表。拠点をニューヨークに移した2013年~2016年の間は JUNYA WATANABE コムデギャルソンのパリコレのショーのためのヘア&ヘッドプロップディレクションを担当。近年はヘアの表現の幅を広げ、美術館などでインスタレーションを制作。アーティスト活動と並行して、自身が立ち上げたクリエイティブ・プラットフォーム konomad のディレクターとして展示、プロジェクト、ポップアップイベントの企画を手がける。2023年2月に4冊目の本、*Fancy Creatures* を発表。



王之玉, *Rebis*, 2021
© Courtesy of the artist

Zhiyu Wang 王之玉

東京藝術大学大学院油画専攻研究室在籍。神話伝説、自然科学、神秘学などから着想を得た作品を制作している。生命体と非生命体、人工物と自然物、混沌と秩序、陰と陽、男と女など対立する性質を有限な状態から解放し、再び結合し、調和させる。現代錬金術師としてさまざまな技法とメディアを駆使し、調和する空間を作り出す。



王之玉, *Angel Loop*, 2022
© Courtesy of the artist

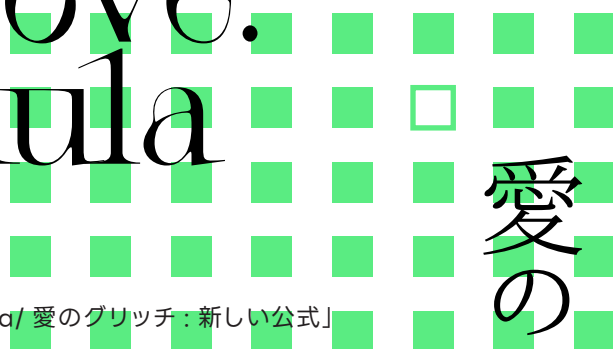
Zzyw

2017年結成。デザイナーのYang Wang(洋汪)と研究者であり教育者のZhenzhen Qi(貞貞漆)によるアート&リサーチコレクティブ。活動拠点はニューヨーク。数学的演算がもたらす文化的・政治的・教育的な可能性を検証する媒体として、ソフトウェアアプリケーション・デジタル・シミュレーション、テキストを制作している。Zzywは、ニューミュージアムのアート&テクノロジーインキュベーター NEW INC のメンバーであり、Pioneer Works やニューメディアアートセンター EYEBEAM、インディーゲームプラットフォーム BabyCastles のレジデンスアーティストとして活動。これまでに Power Station of Art, National Museum of China, Rhizome などで作品が展示されている。アーティスト活動のほか、クーパー・ユニオンやニューヨーク大学にてメディア論の授業などを担当。



Zzyw, *ThingThingThing*, 2019
© Courtesy of the artist

Glitches in Love: A New Formula



愛の
グリッチ
..
新しい公式

展覧会情報

展覧会名	「Glitches in Love: A New Formula/ 愛のグリッチ：新しい公式」
会期	令和5年3月24日(金)～令和5年4月9日(日)
開館時間	10:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで) 月曜休館 入場無料
会場	東京藝術大学大学美術館 陳列館東京都台東区上野公園12-8
主催	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻
共催	一般財団法人カルチャー・ヴィジョン・ジャパン
助成	藝大フレンズ
キュレーター	杉山明理朱 / 王皞哲 / Lucy Fleming-Brown / Finn Ryan / Yuheng Wu / 前田宗志 / Mengke Guo / 徐葦
サポーター	Gamze Baktir / Ghada Hadil BenFredj / Katrin Bjorg Gunnarsdottir
監修	長谷川祐子 [東京藝術大学教授、金沢21世紀美術館館長]
メインビジュアル	shiiin.u
デザイン	Hongqiao Li
協力	Galerie Supermarkt
出展作品・アーティスト	<i>Eye of the Dream</i> デイヴィッド・オライリー <i>Finiliar</i> エド・フォーニスレス <i>Lychee</i> 陳飛 <i>Keep Clear</i> グラハム・マーティン <i>1990</i> ウチダリナ <i>Child GOD</i> 山本和真 <i>Treating (Sid)</i> 山本和真 <i>Why are you so warm?</i> 上原菜々恵 秘密の愛 柳原好貴 <i>generating-4</i> 芹野直子 <i>The Vegetal, Intimately</i> シュペラ・ピートリッチ <i>Fancy Creatures</i> 河野富広 <i>Rebis</i> 王之玉 <i>Angel Loop</i> 王之玉 <i>ThingThingThing</i> Zzyw
交通案内	JR 上野駅(公園口)、東京メトロ千代田線根津駅(1番出口)より徒歩10分 京成上野駅(正面口)、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅(7番出口)より徒歩15分 ※駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。
展覧会公式サイト	glitchesinlove.com

広報お問い合わせ

「Glitches in Love: A New Formula/ 愛のグリッチ：新しい公式」展

担当：杉山明理朱

Tel: 050-5525-2725

Fax: 03-6846-8685

Email: glitchesinlove@gmail.com

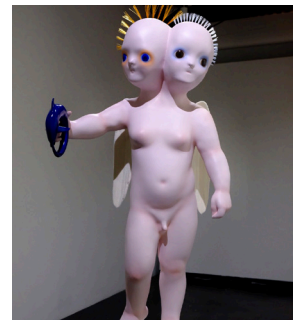
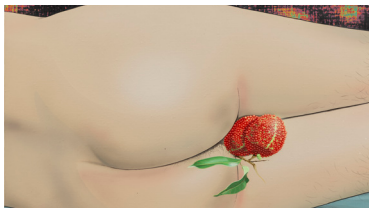
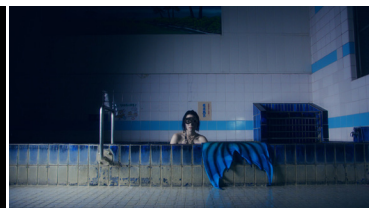
広報用画像

以下の画像を広報用に提供いたします。

ご希望の方は下記の〈広報画像取扱いに関する規定〉をお読みのうえ、広報担当までご連絡ください。

担当：杉山明理朱 (Alice Sugiyama)

Email: glitchesinlove@gmail.com

Main visual
© shiin.uDavid O'Reilly, *Eye of the Dream*, 2019
© Courtesy of the artist河野富広, *Fancy Creatures*, 2023
© Courtesy of the artist
Photography: Sayaka Maruyama王之玉, *Rebis*, 2021
© Courtesy of the artist陳飛, *Lychee*, 2022
© Courtesy of the artist
Photography: Yang HaoŠpela Petrič, *The Vegetal, Intimately*, 2023
© Courtesy of the artistLina UCHIDA, *1990*, 2021
© Courtesy of the artist
Photography: Naoki Okumura王之玉, *Angel Loop*, 2022
© Courtesy of the artist

広報画像取扱いに関する規定 ・広報画像のご使用は、「Glitches in Love: A New Formula/ 愛のグリッチ：新しい公式」展を紹介する場合に限ります。事前の申請・承諾のない二次使用はご遠慮下さい。

・広報画像掲載にあたっては、指定されたキャプションやクレジットがある場合はそれを併記してください。

・事前承諾のないトリミング、変形、部分使用、文字のせはご遠慮下さい。

・アーカイブのため、後日掲載誌（媒体）、もしくは URL などをお送りください。

〈個人情報の取扱いについて〉 個人情報は広報関係の情報発信やご案内など必要なご連絡にのみ使用し、許可なく第三者に個人情報を開示することはありません。

以上、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

お問い合わせ

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科

アートプロデュース専攻 キュレーション領域

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8 国際交流棟5階 GA 教員室

Tel: 050-5525-2725 (担当: 知念ありさ)

Fax: 03-6846-8685

E-mail: chinen.arisa@fac.geidai.ac.jp